

国・県事業の促進

- 中勢バイパスの河芸町三行以北の整備促進と交通渋滞対策の国への要望強化
- 一級河川雲出川の河川改修事業のさらなる促進、海岸堤防阿漕浦・御殿場工区は国体の競技に支障が出ないよう整備促進を国へ要望
- 国道368号下太郎生工区の改良工事、片田バイパスの片田久保町地内から片田井戸町地内の工事、二本木御衣田線の工事、江戸橋・中川原橋の橋脚工事、香良洲橋の解体工事、相川の市道相川橋から黒木橋間の改修の早期完了を県へ要望
- 一志美杉線・亀山安濃線(高野尾バイパス)の早期整備、岩田川の早期改修を県へ要望

平成29年度予算

津市の財政構造が転換期にある中、津市の将来のためにやるべきことを自らで決定し、市民の暮らしをより良くするための取り組みを着実に進めていくための「自立前進予算」としました。ここ数年は4大プロジェクトをはじめとする大型事業の進捗状況に応じ、予算額については、平成27年度が最大規模となっていました。平成29年度一般会計当初予算額は、4大プロジェクトが完了することなどにより、過去3番目の規模を維持するものの、前年度比は2年連続の減となる**1,129億円**としました。

▶編成のポイント

【歳出】 普通建設事業費は、前年度比1.8%減の167億4,000万円とし、産業・スポーツセンターや認定こども園の施設整備、小・中学校校舎の大規模改造などに係る経費を計上しました。

【歳入】 市税は景気が穏やかな回復基調にあることなどにより、前年度比2.3%増の399億円、地方交付税は地方財政計画や市町村合併に伴う普通交付税の算定替えの特例措置の段階的な縮減を踏まえ、前年度比1.7%減の177億円、市債は認定こども園整備事業などによる発行額の増により、前年度比4.1%増の139億円を見込んでいます。また、財政調整基金90億3,000万円を繰り入れ、予算編成をしています。

新たなまちづくりに向けて

▶次期津市総合計画・次期津市都市マスタープラン策定

次期津市総合計画および次期津市都市マスタープランでは、これからの10年、さらにその先の未来をしっかりと見据え、方向性を示さなければなりません。

市民の幸せな暮らしを実現するために何をすべきか、どの施策を優先し集中すべきか考え、決

断し、実行していくこととなります。まさに**自立した都市**として、津市の真価がこれから試されます。機を捉え、**果敢に挑戦**し、高みを目指して自ら変わっていくという志を持って、これまでの歩みを止めることなく前進し続けます。しなやかでメリハリのあるまちづくりに向けて、次に展開するまちづくりのビジョンを市民の皆さまとともに描いてまいります。

次代に向けた経営指針

津市職員行動規範 (平成26年度策定)	津市行政経営計画 (平成27年度策定)	津市公共施設等総合管理計画 (平成28年度策定)
------------------------	------------------------	-----------------------------

これらを前提として

次期津市総合計画

次期津市都市マスタープラン

▶健全な財政基盤の維持

合併特例事業債については、平成27年度末時点で借入総額が334億円になっており、今後も有効に活用することから、増加する見込みです。有利な財源とはいえ、これは借金です。その償還がこれから本格化すると、これまでのように単年度予算の財源だけで償還することができなくなる時期がやってきます。その償還のピークは合併特例事業債の発行可能期間終了後からの数年間と想定しています。

償還のピークへの備え

- 財政調整基金の積み増し
合併時104億円→200億円(平成26年度末)
- 臨時財政対策債と合併特例事業債を除く市債残高の縮減
合併時983億円→244億円(平成27年度末)
- 平成27年度から減債基金の積立て再開
- 平成28年度からモーターボート競走事業特別会計から一般会計への繰入れを12年ぶりに再開

厳しい財政状況にあっても、先を見通した長期的な視点で戦略を立て、常に新しい情報への意識を研ぎ澄まして財源を確保し、健全財政を維持し続ける**質の高い財政運営**を行っていきます。

愛着を感じ、これからも住み続けたいと思えるような津市へ

成熟し、自立した都市として、基礎自治体たる津市の責務として、市民の皆さまが愛着を感じ、これからも住み続けたいと思えるようなまちづくりを進め、「津市は言ったことは着実に実現してくれる」「どんどん良いまちになっている」と思っていたできるように、志高く市政を推進していきます。